



令和5年1月
アケボノ保育園

冷たい北風が吹き、一年でもっとも寒さの厳しい季節になりました。子どもたちは、寒さに負けず、ドッチボールや雪遊びなど、元気いっぱい体を動かして遊んでいます。

今シーズンはインフルエンザと新型コロナウイルス感染症のダブル流行が懸念されています。家族全体で予防に努めましょう。

感染症発生状況まとめ (9~12月)

	9月	10月	11月	12月
新型コロナウイルス感染症	5		1	2
インフルエンザ			1	3
ヒトメタニューモウイルス			7 (1名入院)	1
RSウイルス	(1)			1 (1)
マイコプラズマ肺炎				2
手足口病	1		1	
溶連菌感染症				1
突発性発疹症		1 (0)	1 (1)	0 (1)
下痢・嘔吐 (感染性胃腸炎含む)	4 (0)	1 (7)	8 (17)	18 (2)
発疹を伴う発熱	0 (2)	1 (0)	1 (1)	
その他の発熱	13 (39)	14 (27)	66 (40)	50 (35)
中耳炎		0 (2)	3 (1)	9 (1)
咳 (喘息を含む)	5 (1)	10 (11)	8 (7)	27 (1名入院) (5)
発疹 (じんましん)		1 (0)	1 (2)	4 (2)
ものもらい	1 (1)	1 (1)		
目の充血、めやに	2		3	2

※ ()内は前年の人数

9月から12月は前年に比べて、感染症の種類が多くなりました。前年同様コロナ禍ではありましたが、行動制限も緩和された状況で久々の流行となった感染症もありました。11月からは未満児(0,1,2歳児)においては咳、鼻水症状が多くみられました。特に咳症状がある場合は、早めの受診、休養をお願いします。乳幼児は、RSウイルスやインフルエンザなどで重症化することもあります。咳は体力の消耗が激しく、悪化すると気管支炎や肺炎になりかねません。また、飛沫感染を起こしますので、熱がなくても受診、休養をとりましょう。また、11月末から0歳児クラスを中心とした胃腸炎の流行がありましたが、年末年始の休みを挟み終息しています。

新型コロナウイルス感染症は、9月に園内での感染があったものの、10月以降は家庭内感染で留まっている状況が続いています。(園では園関係者でコロナ陽性者が出た場合、園の関係者が濃厚接触者に該当する場合に限りメールで陽性者が出たことをお知らせしています。)引き続き、場面に応じたマスクの着用、手洗い等の手指衛生、換気、三密回避などの基本的な感染症対策を継続しましょう。

鼻水の色を見てみよう

透明

気温の変化によるものやかぜの初期症状の場合に見られます。鼻水は垂れたままにしていると肌荒れの原因になるので注意が必要です。



黄色から緑色

細菌に感染している可能性があり、緑色に近いほど症状が悪いので早めに病院へ行きましょう。また、透明の鼻水に比べてドロツとしていたため、鼻の奥で溜まってしまっていることがあります。その時は加湿などを行い、鼻水を出しやすくしましょう。



ふ〜ん! / ではなをかむ練習から始めましょう

鼻から息を吹いてみる



「お鼻からフーンって吹くよ」と声をかけて、鼻から息を吹き出させます。ティッシュペーパーや、糸についた紙飛行機を顔の前に垂らし、揺らす遊びもおすすめ。

片方ふさいで吹いてみる



鼻から息を吹けるようになったら、片方の鼻の穴をふさいで、やさしく息を吹くよう声をかけます。上手になったら、ティッシュペーパーを当てて片方ずつはなをかませてみます。

しもやけ・あかざれ しっかりケアしましょう

●しもやけは寒さが原因

しもやけは、手足が冷えて血行が悪くなるために起こります。特に、雪遊びなどで冷たくぬれた状態が長時間続いたときに、起こりやすいようです。

しもやけ



●お湯で温める

しもやけの部分をもぬるま湯につけて、血行をよくします。小さな子どもなら、そのまま入浴させてもよいでしょう。また、しもやけ予防のためには、ぬれた手袋や靴下をそのままにせず、乾いたものにかえましょう。



●あかざれは乾燥が原因

空気が乾燥すると、皮膚のうるおいも失われます。特に手は外気に触れやすく、手洗いで乾燥しがち。手の甲ががさがさしたり、ひどいときはひびわれができて血が出たりします。

あかざれ



●ハンドクリームなどで保湿する

手を洗ったら、あかざれの治療と予防をかねて、クリームで保湿します。あかざれをこすると痛むので、やさしく塗ってあげましょう。

